

ASCON SDGs(持続可能な開発目標)勉強会パート1

「サラヤの取組みに学ぶ！」開催報告

日時:2017年10月17日(火)16:00~18:00

会場:食品衛生センター5階講堂

参加:80名



1. 講演「サラヤ株式会社の企業活動とSDGs」 サラヤ株式会社 代表取締役 更家 悠介 氏

サラヤの創立から、世界の医療や福祉分野の感染予防全般に事業を拡大してきた歴史、それを支えた企業理念についてお話いただきました。まさにいま、世界の課題となっている持続可能な開発目標・SDGsの先進事例ともいうべき、感動的な内容でした。

〈お話から抜粋〉

- ◆サラヤの創業は1952年。三重県熊野川の清流を原点として考え、自然にやさしい商品の開発を目指してきた。創業当時の日本では赤痢が蔓延し、予防のために開発されたサラヤの手洗い商品は学校や工場でも広く使われるようになった。
- ◆1971年、石油系合成洗剤による河川の汚染が進み、洗剤が社会的問題となった中、業界に先駆けて地球にも手にもやさしい植物性のヤシノミ洗剤を開発した。



- ◆「企業には倫理が必要」⇒ 渋沢栄一「論語と算盤」
 - ・士魂商才: 商才は道徳と離るべからざるもの。道徳の規範は論語に求める
 - ・国の富をなす根源は何かといえば、仁義道徳: 正しい道理の富でなければその富は完全に永続することはできぬ。
 - ・利用厚生(Business)と仁義道徳(Justice)の結合: 義理合一の信念を確立せよ。仁義道徳により利用厚生をの道を進めていく。
- ◆「道徳のある経営」⇒ 二宮 尊徳
 - ・経済無き道徳は寝言であり、道徳無き経済は頹廢である

- ◆ボルネオでのアブラヤシのプランテーション拡大による自然破壊に対する問題提起を受け止め、持続可

能なパーム油の生産を目指す⇒ボルネオの熱帯雨林を保全して、ゾウやオランウータンを守る！⇒2005年1月「持続可能なパームのための円卓会議(RSPO)」に日本から初めて直接参加。

◆2010年、ユニセフと協働してウガンダで「100万人の手洗いプロジェクト」を展開⇒2012年、POPS(WHO患者安全プログラムと企業の協力)に参加。⇒2014年、国連環境計画(UNDP)のビジネス行動要請(BCtA)に加盟。



◆ラビッドフリーザーの開発:<コンセプト>①地産地消をベースに地域と世界をつなぐ⇒カンボジアで実証事業を展開中！ ②持続可能な発展を可能にするイノベーションを起こす ③子どもたちの未来に遺すものをつくる



2. 質疑・意見交換

<ファシリテーター>

古谷 由紀子 氏

(サステナビリティ消費者会議)

*「企業にとっては情報公開の範囲をどのように考えていったらよいか」、「社員教育・啓発」をどのようにすすめておられるのか、「保険会社ではSDGsの取組みのきっかけがつかみにくい」、「よいアイデアがあれば教えていただきたい」など、事業を進めていくうえでの質問や、外部

団体と積極的に連携・協力していくための方策などについての質問が出されました。

それぞれについて、更家代表取締役から丁寧なアドバイスがありました。

★質疑応答のあと、古谷 由紀子さんからSDGsの17の目標の概要とその中の目標12(つくる責任・つかう責任)詳細、さらにその具体的な取組み例として「食品ロス削減の取組み」の説明がありました。またASCOP(ASCOP 持続可能な消費と生産プロジェクト)の取組みである「SDGsに関する企業アンケート」について説明と提案がありました。

サラヤ株式会社様のご協力と、大勢のみなさま方のご参加を得て、大変有意義な勉強会になりました。

みなさま方に、心より感謝申し上げます。

また、アンケートにもたくさんのご回答をいただきました。ぜひご覧ください。

なお、「食品ロス削減」に関連する企画として、

12月12日(火)総会記念「井出留美さん講演会！」を開催します。

ご参加をよろしくお願い申し上げます。

